

新座市野球連盟大会規程

2025年3月度改定版
< 10版 >

第1章

(全日本軟式野球連盟登録費)

1. 全日本軟式野球連盟規程第3章<チームおよび会員>第7条、第12条に則り、チーム登録料、個人登録料を納付しなければならない。

(大会参加費)

1. 各クラス別に理事会にて試案協議し、評議委員会で承認の上決定する。

(日程組合せ)

1. Aクラスはリーグ戦とし、Bクラス・Cクラスは抽選会の結果を新座市野球連盟事務局（以下「事務局」という。）が作成する。ただし、諸事情により変更する場合がある。
2. 日程については、ホームページにて公開する。
3. 入れ替え戦は、勝利したチームが上位のクラスに残留又は進出することができる。ただし、チーム数によっては変更する場合がある。
 - (1) Aクラス最下位チームとBクラス優勝チームと対戦する。
 - (2) Cクラスの1位・2位チームは入れ替え戦なしでBクラスへ進出する。ただしチームの意向でCクラスに残留する事も出来る。
4. 連盟加盟時はCクラスとする。
5. 日程及び運営の状況等により入れ替え戦を行わない場合もある。

第2章

(試合)

1. 基本的な試合運営は、公認野球規則および競技者必携に則り行う。
2. 試合は次のとおりとする。

項目	予選・リーグ戦・入替戦・ 準決勝戦	決勝戦
回数	7イニングス	9イニングス

制限時間	90分 ※準決勝戦は100分	110分
		時間を優先し、制限時間を超えて新しいイニングに入らない。
試合の成立	① 制限時間を経過し表の攻撃終了時に後攻チームが勝っている場合。 ② 制限時間を経過した後攻チームの攻撃中に勝ち越した場合。 ③ 後攻チームが勝っていて制限時間を経過した場合は、当該打者の打席が完了した時点で終了とする。 ④ 時間を優先するが試合の成立は4回均等会とする。天候悪化や日没等で均等会を満たさない場合は再試合(*2)とする。	
延長戦 特別延長戦	予選およびリーグ戦は、タイブレーク(*1)は行わない。 ※準決勝戦・決勝戦で制限時間を経過し同点の場合はタイブレークを1回行い、なお勝敗が決しない場合は、最終回に出場している選手各9人によるジャンケンで決する。	
コールドゲーム	〈7イニングスの場合〉3回以降：10点差以上、5回以降：7点差以上 〈9イニングスの場合〉5回以降：10点差以上、7回以降：7点差以上	
試合開始時間等	※ 球場の時間制限や日没など関係から時間変更する場合がある。 (組合せ表に表示)	

*1 タイブレーク

無死1塁2塁から試合を行う。打者は、前イニングからの継続打順とし、一塁走者は前位の打順の者、二塁走者は一塁走者の前位の打順の者とする。代打、代走を起用してもよいが、通常のルールと同様、代打、代走を送られた選手は退いた形となり、代打者、代走者が打順を引き継ぐ。

*2 再試合

天候悪化・日没等で試合が成立していない場合は、翌週以降再試合を行う。前回の試合はなかったものとして行う。

3. 各チームは、試合開始30分前に集合、メンバー表を提出し、審判員のチェック後、先攻後攻を速やかに行う。

(1) 試合開始時刻に9名以上整列できない場合には、棄権として取り扱う。また、試合開始30分を過ぎて棄権を申し出たチームは「表彰・罰則規定」を適用する。

4. Aクラス、準決勝戦・決勝戦および入替戦では、投手に代わり指名打者(DH)を使うことができる。

※指名打者制資料参照 (DH: Designated Hitter)

5. A・B・C各クラスは、打者9人を超えて打つこと（MB制度）ができる。

※MB制度 資料参照（多勢打者制度：Many Batter systems）

- (1) メンバー表提出時に申告する。打順は9番打者以降とする。
- (2) 人数制限を設けない。
- (3) 準決勝戦・決勝戦および入替戦においても適用できる。
- (4) MB選手が守備者と交代または代打を送られた場合、交代した守備者・代打を送られたMB選手は以後試合に出場はできない。

ただし、ベースコーチに入ることはできる。

6. 【テンポラリーランナー】投手の体力温存と捕手のプロテクター装着を、イニング終了後でなくイニング中にすることで試合時間短縮に繋がることを目的に、投手・捕手がランナーに出たとき、打順の一番遠いランナーに代えることができる。テンポラリーランナーは攻撃側チームに決定権がある。

（助っ人）

1. チームが不戦敗をなくす努力を目的とし、どうしても人数不足の場合は、助っ人を借りて試合を行うことを認める。

- (1) チーム事情によりやむを得ず助っ人が出場する場合、投手・捕手はできない。
- (2) 助っ人の打順はチームの自由とする。
- (3) 助っ人の個人成績は記録せず、表彰の対象とはならない。
- (4) 助っ人は4名を上限とし、最低6名は登録選手とする。

ただし登録選手が9名で足りている場合でも、助っ人1名の出場を認める。10人目の打者は10番MBとして出場することができる。

※例えば、登録選手が6名で助っ人が4名の場合、1名を打順10番でMBとして出場を認める。登録選手が7名の場合、助っ人は3名が出場できる。この場合でも1名は、10番打者でMBとして出場ができる。

- (5) 準決勝戦・決勝戦を含む試合で登録選手が6名に満たない場合、助っ人を使い勝利しても敗戦（7対0）となる。決勝戦においてはチームの登録選手の個人打撃成績は有効とする。
- (6) 試合中に怪我等で人数不足になった場合は、試合続行不可で棄権試合とする。ただし次の試合待機しているチームなどで助っ人で参加できる場合は、試合は成立と認める。

(7) 助っ人はそのチームのユニフォームが貸し出しできる場合はそれを着用し、出来ない場合は他のユニフォームおよび運動しやすい服装で参加する。

(8) 本連盟は、助っ人の事故・ケガ等による補償等の責任を負うことはできない。

(開催)

1. 試合開催について

(1) 小雨でもその後雨が止み、球場が使用可能な場合は、原則として試合を行う。

(2) 当日、天候状態やグラウンド不良等で試合が行われるかは、各チームの代表者がホームページ等で確認すること。

(3) 当日の天候状況で1試合目は試合が出来ないが、2試合目以降は出来ると判断した場合は試合を行う。

※試合の開催および中止決定は、午前7時までにホームページにて公開する。

2. 登録選手が揃わず試合できない状況が明らかになった場合は、速やかに理事長または審判部長に電話またはメールにて連絡すること。

また当日の場合、試合開始30分前までに理事長または審判部長に連絡（電話またはメールでも可）すること。無連絡で試合を棄権した場合には、「表彰・罰則規程」を適用する。

3. 止む無く試合開始時間に間に合わない選手、またはメンバー表に記載漏れした選手でも、連盟規約の正会員登録メンバーであれば出場できることとする。

第3章

(用具、装具等)

1. 試合球・ロジンバッグは新座市野球連盟が用意する。ただし試合球が1試合4個以上紛失した場合は、当該両チームから新球1個提出を求めることがある。

2. 装具の使用は、公認野球規則で規定されるもののほか、次に定めるものを装着または使用しなければならない。

(1) 捕手は、連盟公認のレガーズ・プロテクター、SGマークのついたマスク、捕手用ヘルメットを装着しなければならない。

(2) 打者、次打者および走者、ベースコーチは、SGマークのついた連盟公認のヘルメ

ットを必ず着帽しなければならない。

3. ユニフォーム、スパイク等は、次に定めるものを着用しなければならない。

(1) 同一チームの監督、コーチ、選手は、同色、同形、同意匠のユニフォームでなければならない。ただし、スパイクを除く。

※助っ人およびCクラスはその限りでは無い。

(2) 背番号は、監督30番、コーチ29番、28番、主将を10番とし、選手は0番から99番とする。なお、00番は許可しない。

(タイム回数)

1. 守備側のタイムの回数制限

(1) 捕手または野手が、1試合に投手の所へ行ける回数は、7イニングス・9イニングス3回以内とする。

なお、延長戦(タイブレーク方式を含む)になった場合は、1イニングに1回とする。野手(捕手を含む)が投手の所へ行った場合、そこへ監督またはコーチ等が行けば、守備・監督タイムを1回として数える(逆の場合も同様とする)。ただし、投手交代の場合は、監督またはコーチタイムは回数には含まない。

(2) 監督またはコーチ等がプレーヤーとして出場している場合は、投手の所へ行けば野手としての守備タイムに数えるが、協議があまり長引けば、監督またはコーチ等が投手の所へ行ったこととし、監督タイムを通告する。

2. 攻撃側のタイムの回数制限は、1試合に7イニングス・9イニングス3回以内とする。

なお、延長戦(タイブレーク方式を含む)は、1イニングに1回とする。

3. 守備および攻撃タイムは、1分間以内を限度とする。

第4章

(球場)

1. 審判員・選手並びにチーム関係者は、球場および施設等の利用上の注意事項を遵守すること。

2. 駐車場を使用する場合は、注意事項を遵守するとともに、大きな声での会話や車の騒音等について配慮すること。
3. 喫煙は、指定場所以外で行わないこと。
4. 試合終了後、両チームはグラウンド整備およびベンチ内の清掃を行うとともに、ごみ等は持ち帰る事とし、球場内の美化に努めること。

(ベンチ)

1. ベンチは、組合せ番号の若いチームが1塁側とする。
2. 球場に到着次第（開始30分前）メンバー表を提出し、審判員確認後、先攻後攻を決め、アップを開始する。
3. ベンチに入ることができる者は、監督、コーチ、プレーヤー、控えのプレーヤー以外に、試合に支障をきたさない人数とし、グラウンド内への立ち入りは禁ずる。

第5章

(ケガの予防と防止)

1. 選手は、試合前にストレッチ体操などの準備運動を行い、身体の柔軟性を高め、ケガの予防に努める。
2. 監督及び選手等は、当該チーム参加者（助っ人・応援者含む）への事故・ケガの防止に努める。特に小さいお子様には十分注意を払う。
3. 本連盟は、事故・ケガ等による補償等の責任を負うことはできない。

(不服申し立て)

1. 当連盟主管の大会において、審判員のジャッジや野球規則の適用について、不服や不明点および疑問点があった場合には、試合翌日の午後9時までに理事長または審判部長に電話またはメールにて連絡する。

改定履歴

改定日	版数	内 容
2018年10月30日	第1版	規程整備に伴う改定。
2019年3月2日	第2版	規程整備に伴う改定。
2019年8月3日	第3版	規程整備に伴う改定。
2021年8月1日	第4版	規定整備に伴う改定。
2022年3月1日	第5版	規定整備に伴う改定。
2022年8月1日	第6版	規定整備に伴う改定。
2023年3月1日	第7版	規定整備に伴う改定。
2023年8月1日	第8版	規定整備に伴う改定。
2024年8月1日	第9版	規定整備に伴う改定。
2025年3月30日	第10版	規定整備に伴う改定。